


3年4組 グローバル化計画 (食べ物編)

実践場所	茨城県	境町立境第一中学校	実践者	松本 知克
対 象	中学校(3年生が中心)		時間数	全4回(全9時間) + α
担当教科	理科	実践教科	家庭科	道徳 学活 総合
ねらい	・価値観を拓げ、自分の身近な生活の中に課題を見つけ、それを解決しようと行動する。			
実践 内容	回	プログラム	備 考	
	1 3時間	<p>マラウイ体験記(生徒向けの研修報告会)</p> <p>① 第2学年 中だるみしがちな2年生が、もう1度、自分の送っている学校生活を見つめなおすことを意図した。</p> <p>② 第3学年(担当学年) 受験生が積極的に学習に向かうことができるようになること、また少しでも気分転換になることを意図した。</p> <p>③ 第1学年 人間関係で悩んでいる生徒に、コミュニケーションの大切さを伝えることを意図した。</p>	<p>・マラウイで入手した「Traditional Song From Mchinji Village」をBGMに。</p> <p>・研修中に撮った写真や動画を見せながらマラウイを紹介。</p>	
	2 2時間	<p>主食の食べ比べ 「シマ」↓をつくろう！</p> <p style="text-align: right;">レシピ参考ホームページ</p> <p style="text-align: center;">http://www.malawiembassy.org/jp/visit/food.html</p> <p style="text-align: center;">http://shinks3.cocolog-nifty.com/blog/2009/04/post-d049.html</p> 	<p>・家庭科で和食をつくる調理実習と合同で実施。</p> <p>・調理実習の直後に給食(ご飯が主食)。</p>	
	3 3時間	<p>国産限定&ワンコイン(500円)で料理をつくろう！</p> <p>学活で年末最後のレクレーション&グローバル化計画 条件設定その1・・・すべて国産のものを使う。 その2・・・1人あたりの金額は¥500以下。</p>	<p>・どうしても国産のものが難しい場合は外国産のものを使用。ただし品名や国名など詳細を記録。</p>	
	4 1時間	<p>気づきをまとめ、考察する。「なぜ～？」</p> <p>例:なぜ国産の食材は高く、外国産のものが安いのか。</p>		
成 果	全生徒がシマづくりを中心に積極的に取り組んだ。味覚からスタートして、マラウイの食べ物以外のことにも関心を広げることができた。			
課 題	実体験や、時間数がまだ不足しているため、生徒の価値観を刺激できても、行動に移すところまでには至らない。教師が模範を示す必要性を強く感じた。			
備 考	学級通信で、国際理解に関する多くの情報や、自分の考え、生徒の考え等を掲載し、保護者にも生徒の興味関心を共有してもらえらるようにした。			

[授業実践の詳細]

1 時限目「マラウイ体験記(第2学年対象)」

1 子どもの活動の流れ

- ① 学年全体で集会の形で講義形式にて行う。
- ② 聴講する。
- ③ 質問や感想を記入する。

この時限のねらい

中だるみしがちな2年生が、もう1度、自分の送っている中学校生活を見つめなおすことを意図した。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分たちがとても恵まれた環境で生活していることがわかった。
 - ◇ 勉強や運動ができる学校はありがたい場所なんだと思った。
 - ◇ 自分も将来は海外に行ってみたい。嫌いだった英語を勉強しようと思った。
- (すべて生徒の感想用紙から抜粋したもの)

3 使用した教材

- <教材1> ノートパソコン
- <教材2> 電子黒板
- <教材3> マラウイで購入した教科書



2 時限目「マラウイ体験記(第3学年対象)」

1 子どもの活動の流れ

- ① 学年全体で集会の形で講義形式にて行う。
- ② 聴講する。
- ③ 質問や感想を記入する。

この時限のねらい

受験生が積極的に学習に向かうことができるようになることを意図した。また、いつもと違った視点から自分を見つめるきっかけになればと考えた。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ マラウイでは教科書が高額過ぎて買えないという、日本とのギャップに驚いた。
 - ◇ 日本は恵まれているんだから、アフリカの人に負けないように勉強したい。
 - ◇ 使っていないものやペンやノートなどをアフリカに送ることはできないか。
- (すべて生徒の感想用紙から抜粋したもの)

3 使用した教材

- <教材1> ノートパソコン
- <教材2> 電子黒板
- <教材3> マラウイで購入した教科書、民芸品その他



3 時限目「マラウイ体験記(第1学年対象)」

1 子どもの活動の流れ

- ① 学年全体で集会の形で講義形式にて行う。
- ② 聴講する。
- ③ 質問や感想を記入する。

この時限のねらい

人間関係で悩んでいる生徒に、コミュニケーションの大切さを伝えることを意図した。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 外国は自分の意見がちゃんと言えないと生きていけないと思った。少し怖いけど、とても興味がわいた。
- ◇ 携帯やスマホ、パソコンでのコミュニケーションよりも、直接相手と話すことが大事だと思った。
- ◇ すぐキレたり、ケンカしているのがばかばかしい。
(すべて生徒の感想用紙から抜粋したもの)

3 使用した教材

- <教材1> ノートパソコン
- <教材2> 電子黒板
- <教材3> マラウイで購入した民芸品その他



4、5 時限目「日本の主食とマラウイの主食」

1 子どもの活動の流れ

- ① 調理実習の準備
エプロン、三角巾着用必須 マスク着用 手洗い その他
- ② 作り方を覚える。レシピを配布。
- ③ 調理開始
- ④ 実食（給食も配膳）
シマはマラウイ式に手づかみで食べる。
- ⑤ まとめ、感想、自己評価の記入

この時限のねらい

- ・マラウイの主食「シマ」を食べながら、映像を見たり、話を聞いたりして、マラウイ共和国を身近に感じてもらう。
- ・日本の主食「ご飯」と食べ比べながら、文化の違いなどを実感す

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 生徒の感想
 - ・はじめて見る料理なので、つくるのがとても楽しかった。
 - 粉を足すタイミングが難しかった。グループによってうまくできている班とそうでない班とがあったのもおもしろかった。
 - ・シマもまずはなかったが、給食のご飯がおいしいと感じた自分に少し驚いた。
- ◇ 生徒は友達との調理実習を楽しんでいたのはもちろんだが、世界には自分たちの知らない食材や料理があることを実感し、異文化に興味をもつことができたようであった。



3 使用した教材

<教材1>マラウイ産メイズ粉(シマの原料)



1 子どもの活動の流れ

- ① 話し合い 計画 (1時間)
 - i この前はマラウイのシマをつくって食べてみたけど、外国の同級生に日本の食べ物をふるまうとしたら…？
生徒「寿司！」「ラーメン！」「お好み焼き！」「スイーツ！」
(次々と日本のおいしい食べ物が挙がる。)
 - ii それじゃその料理を自分たちでつくってみよう！ただし、日本の食材のみを使って、できるだけ安くつくろう。
普段食費を抑えるなら、1食あたりいくらにしたい？
生徒「100円？」「無理だろう！」「じゃワンコインで」
(話し合いの結果、一人当たり500円以内となった。)
 - iii 以上の下線の2条件を満たして、年末最後の学級活動を料理レクレーション(教師は「3年4組グローバル化計画」)で行った。

- ② 各自計画した通り、週末に自分の担当の食材等を購入

・翌週月曜日、国産の食材が見つからず、計画を変更することになったグループや、設定金額を超えることになってしまったグループが続出する。クラスに報告、全員の承認を得て、再び買い物に。

* 保護者の協力が必要不可欠なため、学級通信で告知した。生徒が主体となって動いていることもあり、批判などは一切なく、全面協力していただけたことが大変ありがたかった。

- ③ 調理開始 8グループがそれぞれに料理をつくっていく。(たこ焼き、ケーキなどなど)

* 運動会(自分の担任するクラスが)優勝のご褒美と約束していた「釣ってきた魚をさばいてふるまう」も同時に行う。茨城の魚ヒラメの刺身、生魚が苦手な生徒にスズキのムニエルを生徒にふるまった。

国産どころか茨城の海で先日とれたばかりの食材。(そして、釣ってきたものはノーコイン！？)

- ④ 実食

- ⑤ まとめ、感想、自己評価の記入

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 計画の段階から生徒が主体的に活動することができた。生徒は海外から輸入されている商品の多さにとても驚いていた。さらに、国産品のものは外国産のものよりも値段が高いものが多いことがわかった。
- ◇ 調理をして、国産の食材がおいしいことに気付く生徒が多かった。生魚が苦手な生徒が多いと思っていたが、4kgのヒラメが大人気で、あっという間になくなった。「ヒラメってこんなにうまいのか！」
- ◇ 日本の食材でおいしい料理を海外の人にも食べてもらいたい。

3 使用した教材食材

国産品多数 外国産少々

この時限のねらい

- ・前回とは逆に、日本文化を海外に紹介する立場に立って考える。
- ・また、日本の様々な商品の多種多様化によって、どのくらい世界とつながっているのかを実感するため、食材を中心に考えてみる。
- ・同時に国産品、さらには地元産の良さを見直してもらう。

名称	小麦粉	栄養表示(100g当たり)	
内容量	800g		
原材料名	小麦	エネルギー	382kcal
賞味期限	枠外上部に記載	たんぱく質	7.7g
保存方法	強いにおいのものをそばをさけて、低温の場所に保管してください。	脂質	1.9g
使用上の注意	開封後は吸湿虫害を防ぐ為、袋口を閉めて保管し、お早めにご使用ください。	炭水化物	76.9g
		ナトリウム	2mg
		五訂食品成分表及び製造者の分析による	
		※種類名:中力粉	
		※主な用途:天ぷら、お好み焼き、手打ちうどん	



1 子どもの活動の流れ

- ① これまでの授業を振り返り、今日のテーマを発表
- ② 話し合い活動（以下生徒発言等）
 「輸送代とかが余計にかかるはずだろう？」
 「やっぱり日本が金持ちだから、貧しい国から安く買ってるんじゃないのかな。」
 「なるべく自分たちで必要なものを生産できていけば問題はなくなると思うんだけど……。」
- ③ 自分の暮らしを見つめなおす

この時限のねらい

- ・外国産が国産よりも安い理由を調べ、考察することができる。
- ・自分の日常生活の中のものが、遠く離れた外国にもつながっていることを意識することができる。
- ・身近な課題を発見し、それを解決するために行動できる。

2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分たち日本人の暮らしが、近隣の国や先進国以外にも、多くの発展途上国ともつながっていることを知ることができた。
- ◇ 先進国のせいで貧しい暮らしをしているような記事があったので、とても考えさせられた。食べ物に関しては地産地消が良いと思った。温暖化対策にも？
- ◇ 今後もっと詳しく調べてみたいと思った。 （以上は生徒の感想用紙から抜粋したもの）

3 使用した教材

電子黒板 パソコン 読み物資料 学級通信など

■ 全体を通して

1 授業の様子



校長先生をはじめ、多くの先生方にも授業を参観、また参加、協力していただきました。

2 参考文献・資料

ESD 拠点としての自然学校 ～持続可能な社会づくりに果たす自然学校の役割～ 2012年
 監修 立教大学ESD研究センター 編著 阿部 治・川嶋 直 以上